

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム虹の里の共通理念として、いつまでも安心して安全に生活できる家(ホーム)を提供、一人一人の感性を大切に、プロの家族による心を込めた介護サービスの提供、地域の中で信頼され、ふれあいの出来る開かれた施設を提供するものとし、。社是を痴呆を有する高齢者とケアに誠実なスタッフが、“一緒に集(つど)い”“一緒に生活し”“一緒に行動し、信頼しあい”“一緒に生きがいを見つけていく”ホーム(家)としている。認知症高齢者の人権を尊重し、“その人らしさ”の生活と、住み慣れた環境(家)の再現に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	辛いところに手が届く、そんなお世話をしたい、更に、安心と安全を提供する“プロの家族”を目指す。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	運営推進会議において、詳細を報告する。行事参加の広告・宣伝を増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は必ず先に挨拶をするようにし、隣近所の人にも気軽に声をかけていただいている。自治会の仕事などにも、率先して参加している。畑も近所の住民の指導を受けながら、一緒に開墾するなどして、気軽に立ち寄ってもらえるような、日常的なつきあいができるように努めている。こども110番に登録している。運営推進会議により、詳細を報告する。近所から随時野菜などの提供がある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。町内の会長さん方には、運営推進会議に喜んで参加していただいている。地域の祭りに参加している。畑仕事にボランティアで来られる方と、一緒にお茶などをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に対する理解を地域住民に浸透する作業を進めながら、地域にお住まいの高齢者の情報を集め、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。クリーンパートナーとして地域のゴミ拾いの活動をしている。地域お祭りの参加の声掛けを頂き、利用者様と一緒に参加させて頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法令順守のもと、契約書・重要事項説明書の見直しを行い、随時の自己評価に取り組みながら、その評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。自己分析表により、不明な点・改善点などを、各自で分析し、学びあう。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者やサービスの実際の取り組み状況について報告し、優先的に地域の要望を聞きながら、そこでの意見をサービス向上に活かしている。地域の方へ施設行事(祭りや防災訓練など)に参加していただけるよう提案している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には毎回、運営推進会議に参加していただき、それ以外にも、行き来する機会やメールでやり取りなどで、情報交換を密に行っている。市の長寿介護課とはメールのやりとりも含め、問題が生じれば何でも相談している。市開催の研修会等には職員を積極的に参加させている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	高齢者の権利・尊厳の維持として地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての資料を作成し、随時勉強会を行い、個々の状況に応じて必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	○	毎週土曜日を勉強会に当てている。その中で、高齢者の人権について、更に認識を深め、活用できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての10と同じ資料の中で学習し、利用者の自宅や施設内で虐待が、見過ごされることがないよう細心の注意を払い、防止に努めている。	○	高齢者の虐待防止に関するセミナーに参加し、研修報告会にて発表する。 職員全員が研修に参加できればよいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所マニュアルを作成し、契約の意義を理解した上で、契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得るようにしている。	○	現在は担当者が限られているので、全職員が入退所の手続きに携われるようにしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者(第三者)へ表せる機会を設け、台帳を整備し運営に反映させている。(運営推進会議や地域介護勉強会など)	○	苦情箱だけでなく、広く利用者の意見を反映できるように考えたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ごとに、事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に個々に報告をしている。職員が、手書きのお便りにて利用者の近況を報告する。また、個人の預かり金残高については請求書に同封して郵送し通知している。職員の顔写真を掲示している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者(第三者)へ表せる機会を設け、台帳を整備し運営に反映させている。(苦情受付箱、運営推進会議や地域介護勉強会など)	○	苦情の内容は、会議・申し送りなどで職員に傳達し、共通認識をし対応策を考え実行する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例職員会議を開き、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。大きな議案などが生じた場合は臨時の職員会議も招集する。運営に関わる重要案件は会議にて検討し議事録回覧にて周知している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。行事などには人員基準以上の職員を配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。馴染みの関係を保つためユニット間の移動は積極的には行わない。また福利厚生に力を入れ職員の生きがい働き甲斐のある職場環境の構築に努力している。	運営者は、勤務表を管理しながら、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。馴染みの関係を保つためユニット間の移動は積極的には行わない。また福利厚生に力を入れ職員の生きがい働き甲斐のある職場環境の構築に努力している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう、個人目標の作成や職能要件書の整備などで配慮している。職能要件書などを通して、自己研鑽に励み、また、上司による個人面接に力を入れている。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会などを通じて、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。勉強会での重点項目に高齢者の人権を上げている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職能要件書などを用い、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人外の研修を受ける機会の確保や、OJTによる勉強などを進めている。事業所外の研修には、できる限り参加するよう支援している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会(NPO)などを利用することで、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	他の事業所から見学・訪問時にはアンケートの実施や情報交換などで、当ホームに不足している部分を見い出す。今後は、積極的に他の事業所の見学をしていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会を随時行うことで、管理者や職員のストレスを軽減するようにしている。また陰で不平不満が出ることなく誰もが自由に意見が出せるようホットハウス(休憩所)などを作り努力している。	○	発言が自由にできる場を設ける。決して陰で不満が出るような環境を作らない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人目標や職能要件書を用い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○	利用者には安心と安全を提供し、職員間には信用と信頼で繋がり、個人は自覚と責任を持つ。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテークを重視し、フェースシートを用い、相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○	利用者が安心し、自分の意思決定ができるように支援する。希望を受け止める。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とのインテークを重視し、相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○	利用者の問題に対し、個別的な対応・ケアについて家族と職員と一緒に成長できるようにする。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に傾聴し、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○	受容的・共感的な態度を大切にし、対応していく。また、他サービス利用の情報収集に努める。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、本人の施設見学の回数を重ね、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるような関係作りを優先するなど、家族などと相談しながら工夫している。	○	利用者が自分の考えや感情を、自由に表現できる働きかけをし、対応する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援の理念のもと、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○	色々な場面で、その利用者が得意なことを中心に、一緒に何かをすること、また、その発見に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、情報を共有し、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者家族による家族会の結成を企画している。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	フェースシートを用い、これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。本人と家族の関係を再構築する。時には、職員が間に入り、利用者に関する内容の話題づくりや今後の過ごし方など提案する。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	フェースシートを用いた聞き取りにより、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○	利用者の知人が来られた時は、職員もできるだけコミュニケーションを取り良好な雰囲気作りに努める。また、本人の希望する外出行事に取り入れる。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フェースシートやアセスメントにより利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○	レクリエーションや軽作業などにおいて職員が間に入り、会話などが弾むような工夫をする。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サマリーを作成し、サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にし、必要に応じてその後のサービス担当者会議にも職員を出席させている。退所後も、家族の相談に応じていく。長期入院で退所された利用者へもお見舞いに行き、関係を続けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書において、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○	定期的なアセスメントを行い本人の意向や思いを実現していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅の再現を念頭に、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。	○	家族や居宅介護事業所より入所以前の情報を収集し、生活習慣の把握に努め支援に活かす。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護経過記録表を用い、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	介護経過記録表を分析し、今後の生活についての工夫・検討をする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。家族参加のカンファレンスを利用者ごとに定期的に行っている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を別に定め見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	利用者の状態の変化や退院などの度会議を開き、その状態に適した計画を立て直す。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月介護経過記録表を用い、日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。定期的、及び、必要に応じたモニタリングを行う。介護経過記録を、かかりつけ医に見て頂き、体調・状態の変化を知って頂いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が主役という姿勢で、本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。常に利用者本人が主役であり、やりたい事を自由に選択して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、自治会・医療施設等と協力しながら支援している。地域住民との運営推進会議において、地域や他の社会資源の活用について理解を頂き、前向きな意見を出してもらっている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、通所介護事業など他のサービスを利用するための支援をしている。	○	地域の他のケアマネジャーやサービス事業所との繋がりを更に深めたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについて、久留米南地域包括支援センターと協働している。	○	今後も、情報交換を密にしていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。現在3人以上のかかりつけ医と関係を築いている。かかりつけ医と24時間連絡体制(オンコール)を敷き、対応して頂いている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	渡辺医院を通じ、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	必要に応じて家族を含め、職員が記録したものを見て頂きながら、渡辺医師の判断を仰ぐ。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者担当制を敷き、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	利用者の状態の変化があれば、かかりつけ医師、協力医療機関・訪問看護にすぐ連絡して、適切に対応していただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	サマリーのやり取りで、利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。訪問介護事業などと連携している。	○	入院された時は、職員が交代でお見舞いに行く。また、医師・看護師に状況を尋ねる。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアのマニュアルを整備し、重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。職員の心理的不安を取り除くため、外部より講師を呼んで、講演をして頂いた。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」の文書を交わし、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。	○	職員全体が、共通認識・意識の統一を図るために、会議、勉強会などを行う。また外部研修会にも出席する。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。必要に応じて行政にも関与して頂いている。	○	家族より馴染みの道具などを持ってきてもらい自宅の再現を図る。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを優先し思いやりの心で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような、言葉かけ・対応・記録等の個人情報の取り扱いをしないようにしている。	○	個人情報に関する保護についてのマニュアルを職員が周知・理解して行動する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	介護計画をもとに、本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	利用者に落ち着いた環境と時間を提供し本人の希望表出に努める。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの理念をもとに、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。	○	利用者の生活リズムを大切にしながらも、時には活動の場を提案し、できることの幅を広げる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の気持ちを優先し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば、理容師・美容師にホームに来て頂く。起床後、整髪などの支援をする。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	○	メニューの希望を聞き、料理に工夫を凝らす。家事など、出来る事を職員と一緒にして頂き、また、出来る事の幅を広める支援をする。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別に本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを日常的に楽しめるよう支援している。希望者には夕食時の晩酌もできる。タバコは喫煙場を設けている。食べ物類は、賞味期限などに注意を払い適時提供する。必ず家族と話し合い支援する。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ワークシートも使い、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄チェック表を行っている。また、声かけ誘導をし、排泄リズムに気を配り、失敗が無いよう支援する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣性を大事にし、曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。利用者の状態を把握し、タイミングよく声かけ誘導をする。入浴剤を使用し毎日温泉気分を味わっていただいている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の生活状況や、個別の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	○	無理のない活動・行動に気を配る。昼夜逆転にならないようにする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○	時には、役割分担を決め、生活にメリハリをつけてもらう。また、趣味を活かした活動をしていただく。(水墨画、スケッチ、装飾品作りなど)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での預りは最小限に留め、本人がお金を持つことの大切さを理解して、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望があれば、財布にお金を入れ居室で管理していただく。また一緒に買い物などに行く。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常に事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。利用者の体調を考慮し、近辺の散歩、買い物の付き添い、近所をドライブなどを行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	戸外活動、外出行事を通じて、一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	○	利用者の要望を聞き、行事計画などで企画する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を通じて、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○	本人の希望があれば、適時支援する。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面接時間をあえて設けずに、家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。あえて面接時間を設定していない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	○	緊急やむをえない場合の状態について家族・職員間での共通理解を深める。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいるとともにリスクマネジメントも理解し利用者が怪我や事故にならない工夫もしています。	○	利用者の見守りを常に心掛け、行動の様子を念頭に置き、鍵をかけないようにする。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	マニュアルを整備し、職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。対面式の施設の特徴を活かし見守りを重視する。常に安全に気を配っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	連絡帳で情報交換をしながら、注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○	注意の必要な物品に関して、随時、管理・点検を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備し、転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	職員のリスクマネジメントの意識を向上させるため今後も研修・訓練を続ける。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備し、消防署立会いの勉強会を行い、利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	研修会などに積極的に参加する。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備し、火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の各会長を中心に地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。年に2回、避難訓練を行っている。地域住民の参加を積極的に行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	サービス担当者会議等で、一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	利用者の状態に応じ、家族と連絡を取り、話し合う場を設ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護経過記録表など日々の記録を通じて一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○	定時のバイタルチェックと、異変時のバイタルチェックを行い、異変事は速やかに関連医療機関に連絡を行う。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。利用者への手渡しなど誤薬のない工夫もしている。	○	利用者の服薬時には、名前・日付・時間帯を声に出して確認し、飲み込むまで見守りをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ワークシートも使い、職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	○	排尿・排便チェック表を使い、利用者の状態観察をする。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアのマニュアルを整備し、口腔ケアの重要性を理解し、口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	○	歯科医・歯科衛生士により、一人ひとりに応じた口腔ケアに関する研修を受ける。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	レシピや栄養表も使い、食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○	食事量、水分補給のチェックを介護経過記録に記入する。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)特に手洗いを重要視している。	○	手洗いうがいを励行し、感染症についての意識を高める。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを整備し、食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	購入時に日付を確認、かつ、記入して、安全・安心な食材を使用する。特に生ものに関しては、店より適時配達してもらう。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾るなど利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	利用者と一緒に、季節感のある生け花を栽培する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じ取れるような飾りに変えていくことで、共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	昔を思い起こせるような、飾りつけ・備品を揃えていく。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット玄関先や畳による談話コーナーの設置やソファの設置場所の工夫で、共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○	特に新しく入居された利用者には、身体状況に応じた工夫を凝らし、居心地のよい場所作りを支援する。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の再現を念頭に、居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	利用者や家族と相談しながら、居室の飾りつけ、模様替えを季節ごとに行う。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員一人ひとりが気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	○	温度・湿度計をチェックしながら、快適な室内環境になるよう調整する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は対面方式を用い、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	○	ホール全体を見渡せる構造であるが、若干の死角になる部分については、見守りに注意を払う。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介護計画により一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。居室・浴室・トイレには、目印になる飾り付け表示をしている。壁などには、季節ごとの飾りつけ、カレンダーを利用者と作成している。また、行事についての写真を貼り、記録と記憶を大切に考えている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに畑を作り、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	○	外周散歩、作業、くつろぎの場として、個々の利用者の状況に応じて活用する。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

たとえ認知症になっても“その人らしく”生活してほしいと、住み慣れた環境（家）の再現に取り組んでいます。ごく普通の家庭にあるものから整備し、明治・大正時代の大家族のような定員9人の小規模生活様式のユニットケアの中で家庭的な温もりを大切にしています。ご利用される要介護高齢者がいつも主役のホームです。ケアプラン（介護計画）も一緒に作ります。要介護状態になって失った社会参加（外出や就業）を、もう一度取り戻すことが目標です。元気になって自分の家にもう一度戻っていただければ最高です。虹の里のスタッフは、高齢者が好きで、いつも一緒にいたいという思いの介護福祉士やホームヘルパーが交代で働いています。常に痒いところに手が届く、そんなお世話をしたいスタッフが集まって“プロの家族”を目指して頑張っています。